

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和3年 6月11日	
(宛先) 岡 崎 市 長	
提出者	
住 所 岡崎市矢作町字出口1番地	
氏 名 東レ株式会社 岡崎工場	
工場長 黒川 浩亨	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0564-34-2130	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	東レ株式会社 岡崎工場
事業場の所在地	岡崎市矢作町字出口1番地
計画期間	令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日まで)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	化学工業
② 事業の規模	32,506百万円
③ 従業員数	827人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1の通り。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2の通り。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和2年度）実績】別紙3の通り。		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】別紙3の通り。		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	全ての産業廃棄物を種類別に分別している。 更に、廃プラスチック類の内ポリメタクリル酸メチル樹脂(アクリル樹脂)屑・ポリスルホン樹脂屑については排出量が多いため分別して回収している。
② 計画	廃プラスチックの分別を細分化し、有価物化を推進する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項：該当なし

① 現状	【前年度（令和 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組)	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項：別紙3の通り。

① 現状	【前年度（令和2年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t t
(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】：別紙3の通り。	
	産業廃棄物の種類	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t t
(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項：該当なし

① 現状	【前年度（令和 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組)	

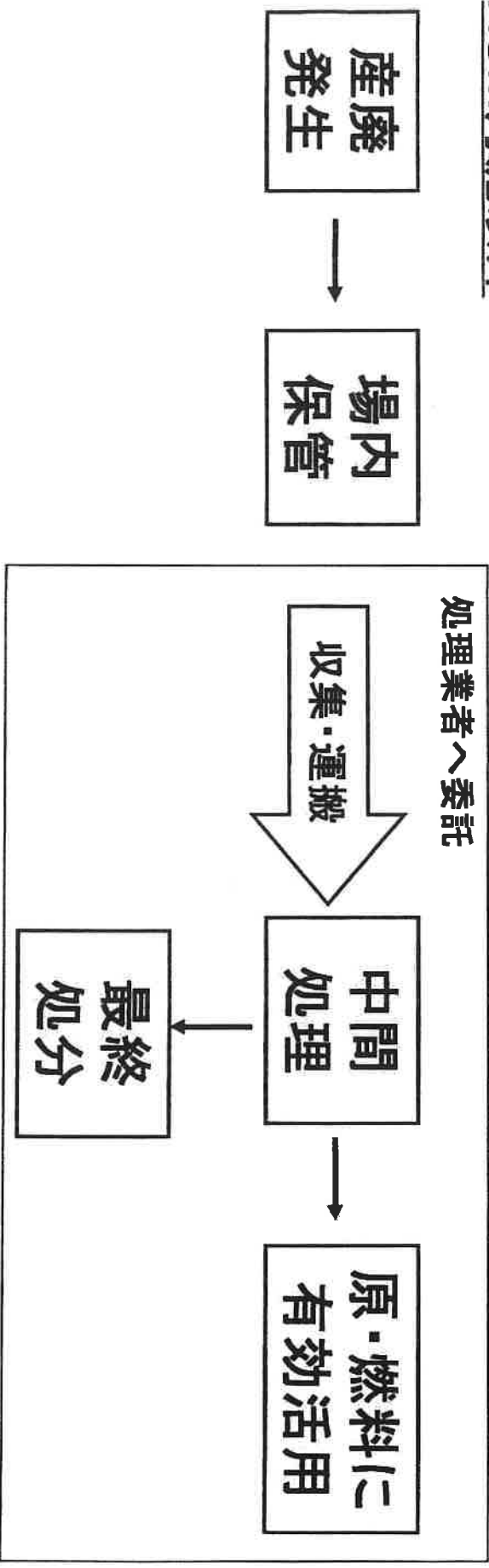
産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和2年度）実績】 別紙3の通り	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(これまでに実施した取組)	

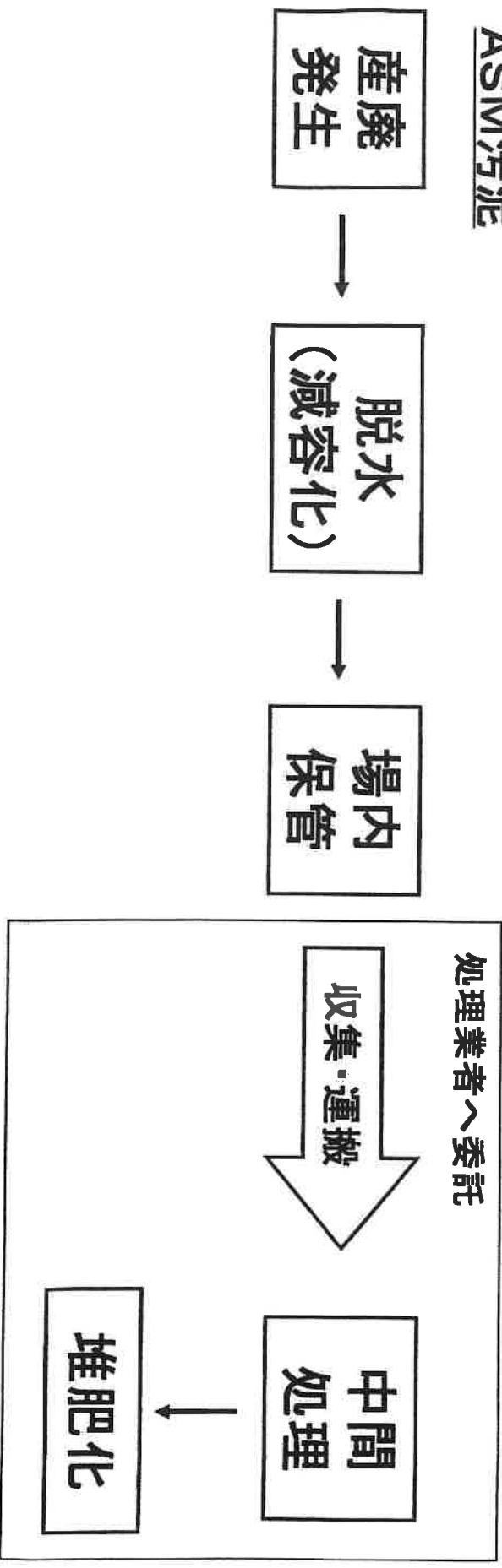
② 計画	【目標】別紙3の通り	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t
	再生利用業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組)	
※事務処理欄		

別紙1 産業廃棄物の一連の処理の工程

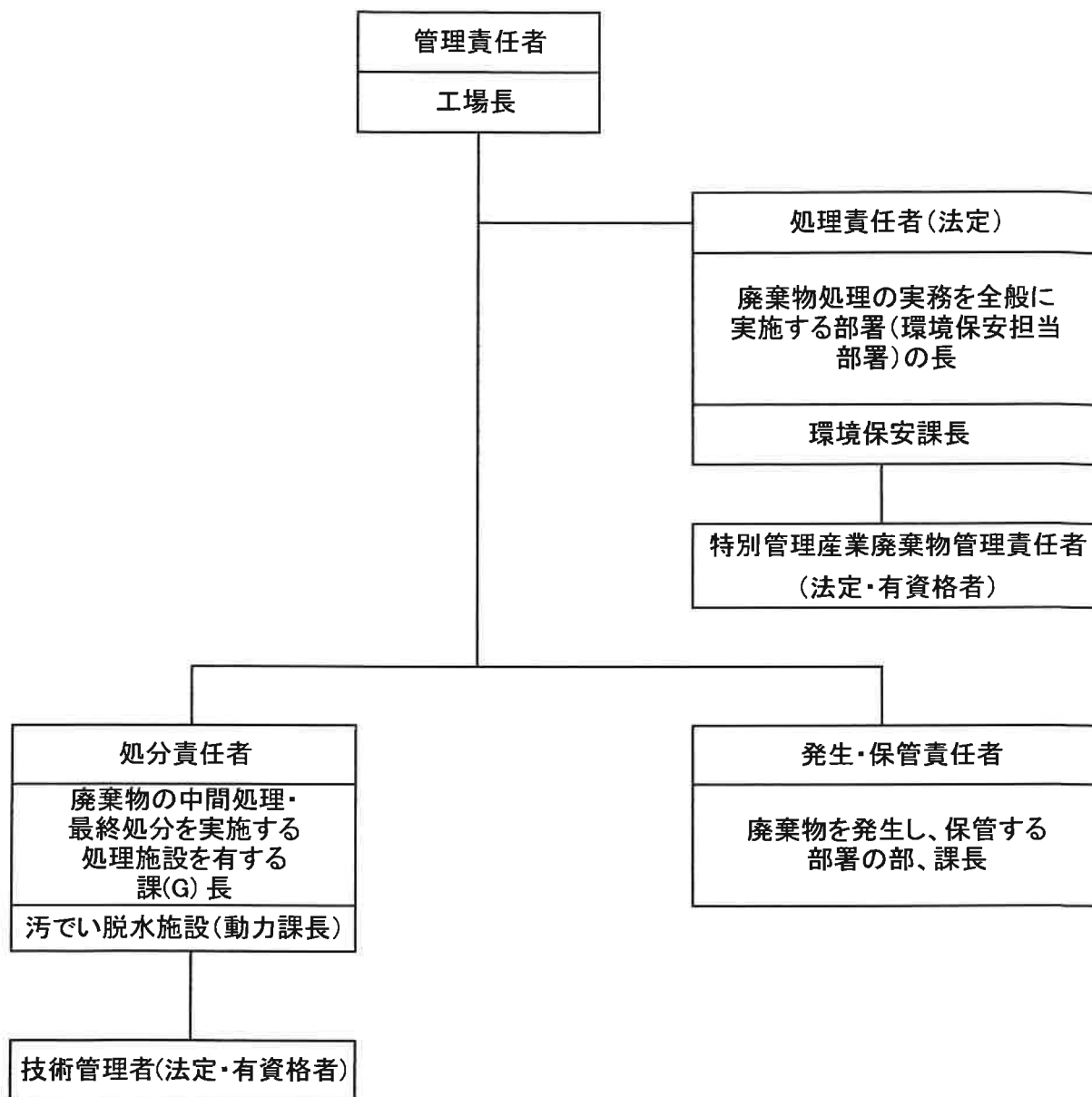
ASM汚泥以外



ASM汚泥



岡崎工場廃棄物管理組織



2021年度 産業廃棄物処理計画書

産業廃棄物の種類	汚泥	廃アルカリ	廃酸	廃プラ	廃油	木くず			計
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項									
現状【前年度(2020年度(令和2年度))排出量実績】	727	1	1	1,683	597	13			3,022
これまでに実施した取組	<p>平成20年:紙管を古紙として有価物化した(排出削減量:336t/年)</p> <p>平成20年:ASMの安定化(担体の添加 等)により汚泥発生量を削減(排出削減量:178t/年)</p> <p>平成21年:廃プラポットティング材(ポリウレタン)の有価売却化(排出削減量:158t/年)</p> <p>平成23年:ポリエチレン袋・PPバンドの有価売却化(排出量削減量:5t/年)</p> <p>平成24年:廃プラ(不良モジュール)の有価売却化(排出量削減量:175t/年)</p> <p>廃溶剤(DMAc)の有価売却化(排出量削減量:185t/年)</p> <p>平成25年:廃プラ(糸束入り不良モジュール)の有価売却化(排出量削減量:86t/年)</p> <p>平成26年:廃溶剤の一部を有価売却化(排出量削減量:12t/年)</p> <p>平成27年:新規廃溶剤(アセトン、メタノール)の有価売却(排出量削減量280t/年)</p> <p>平成28年:廃溶剤(DMAc)の有価売却化(排出量削減量:256t/年)</p> <p>平成29年:ASMの安定化(社外コンサルティング導入等)により汚泥発生量を削減(排出削減量:29t/年)</p> <p>平成30年:廃プラ(PETフィルム)の排出量削減(10t/年)</p> <p>令和元年:廃プラの有価→産廃切り替わりによる排出量増加(515t/年)</p>								
計画【2021年度(令和3年度)排出量目標】	725	1	1	1,682	590	13			3,012
今後実施する予定の取組	令和3年:廃油有価引取検討(30t/年) :工程安定化による廃プラ廃棄量削減検討								
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項									
現状【前年度(2020年度(令和2年度))実績】									
自ら中間処理を行った量	698								698
自ら中間処理により、減量した量	279								279
これまでに実施した取組	<p>平成18年:ASM汚泥の汚泥乾燥機を増設し、汚泥の脱水・乾燥の強化(減量能力増:171t/年)</p> <p>平成27年:汚泥乾燥機を更新し、汚泥の乾燥安定化(減量効果:10t/年)</p> <p>令和元年:ASM汚泥の乾燥安定化による減量</p>								
計画【2021年度(令和3年度)目標】									
自ら中間処理を行う量	698								698
自ら中間処理により、減量する量	279								279
今後実施する予定の取組	令和3年:ASM汚泥処理安定化による減量(1.0%→3.0%)減量率アップ								
産業廃棄物の処理の委託に関する事項									
現状【前年度(2020年度(令和2年度))実績】									
全処理委託量	448	1	1	1,683	597	13			2,743
優良認定事業者への処理委託量	286	1	1	356	243	0			887
再生利用者への処理委託量	419	1	1	1,565	597	13			2,591
認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	118	0	0			118
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	9	0	0	0	0	0			9
これまでに実施した取組	<p>平成22年:電子マニフェストを導入した。</p> <p>平成22年:産業廃棄物処理委託先を、できる限り県内(もしくは近接する県)とすることで、産業廃棄物の輸送距離を短縮し、輸送にともない排出する温室効果ガスの排出量を2009年度比約12%削減した。優良認定処理業者(ダイセキ、エス・エヌ・ケーテクノ、花丘商事、三和油化、三重中央開発)での処理量を増やした。</p> <p>平成25年:認定熱回収業者(三重中央開発)での廃プラ処理量を増やした。</p> <p>平成26年:優良認定処理事業者(日本ウエスト)での廃プラ処理量を増やした。</p> <p>平成29年:ガラスの再生利用者(専ら)へ委託した。</p>								
計画【2021年度(令和3年度)目標】									
全処理委託量	448	1	1	1,680	590	13			2,733
優良認定事業者への処理委託量	286	1	1	350	250	0			888
再生利用者への処理委託量	419	1	1	1,560	595	15			2,591
認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	110	0	0			110
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	9	0	0	0	0	0			9
今後実施する予定の取組	廃棄物処理業者への現地点検(1回/年)により廃棄物の適正処理を確認する。 優良認定処理業者および認定熱回収業者に優先して処理を委託する。								